

5. 瑞穂区に里山ってあるの？

○ねらい：里山ってどんなところ？今でも瑞穂区の中にあるのかな？数多くの種類がある里山の木や草花を調べながら、里山の歴史や役割を考えてみましょう。

●瑞穂区内のフィールド：柏木公園・弥富公園南側樹林地など

里山ってなに？

「里山」とは、かつて人里の近くにあって、薪や炭などの燃料、落ち葉などの肥料、木の実や山菜などの食料のほか、生活用品の材料を得るため、木の伐採や草刈りなどの管理を定期的に行うなど、人々の生活と密接につながっていた森をいいます。また里山は、田や畑、ため池や小川、湿地や草地などと一緒にすることで、この地域にしかない、数多くの動植物が生息する自然環境となっていました。

瑞穂区の里山は今…

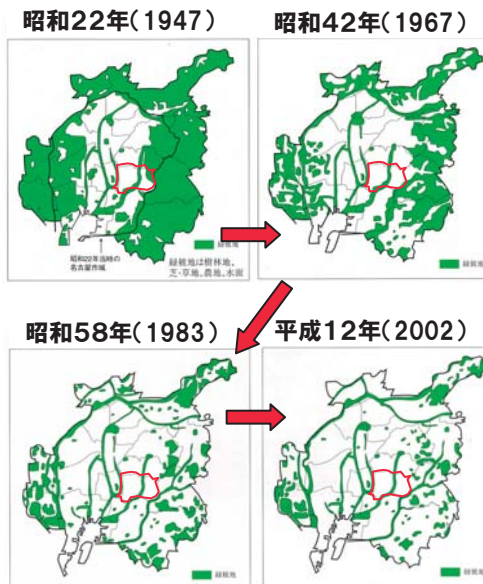
名古屋市の東部丘陵地帯にも、かつて広大な里山地域が連なっていました。瑞穂区でも東部の丘陵部は田畑や雑木林が入り組んだ地形をしていました。市街化が進んだ現在では、その姿はほとんど見られなくなりましたが、弥富公園南側樹林地や柏木公園などには、かつての里山の姿が残っています。

里山を構成する木は多種多様です。どんな木があるか、またその木は、どのように利用されていたのか調べてみましょう。

●名古屋の緑の構造と瑞穂区



●緑の減少と瑞穂区



出典：名古屋しみどりの基本計画「花・水・緑なごやプラン」

●切株からの萌芽更新



里山には、株立ちの形をしたコナラやアベマキがみられます。これは、薪や炭を取るために伐られ、その切株から出た芽が育ったものです。これを萌芽更新といい、これによって里山は持続的にエネルギーを得ることができたのです。

●根元からいくつもの幹が立っている株立ちの樹形



みずほく さとやまじゅしゅ
瑞穂区の里山樹種を見つけよう

里山さとやまの木は、人が植うえた公園や庭の木とは違ちがって、もともとこの地域ちいきの野山にあった木です。昔の人々はそれらの木がもつ特徴とくちようを活いかして暮らしに利用りようしていました。下に代表的な里山樹種だいひょうてき さとやまじゅしゅをあげました。このほかにもたくさんの里山さとやまの木や草があります。それぞれの特徴とくちようを調べてみましょう。そして、どうして里山さとやまが少なくなってきたのか、また私わたしたちはどうして里山さとやまの木を使わなくなってきたのか、考えてみましょう。

葉や幹、花や実の特徴 とくちよう と木の使われ方	写真 しゃしん	葉や幹、花や実の特徴 とくちよう と木の使われ方	写真 しゃしん
●アカマツ：		●タカノツメ：	
●コナラ：		●ソヨゴ：	
●アベマキ：		●ヒサカキ：	
●ムクノキ：		●コバノミツバツツジ：	
●リョウブ：		●シュンラン：	